

# 知ったかぶり情報

中大広報誌『HAKUMON Chuo』では

日ごろの生活ぶりが数字で表れる

各種調査結果のダイジェスト版を作った。

ランチの話題になる!?



## ■もっと安い家賃を

大学入学後、初めての一人暮らしに期待と不安が交錯する。新たな関心は家賃だろう。学生が住む部屋の平均家賃は5万6000円で前回調査(2011年)より2700円安かった。

調査は不動産情報サービスの『アットホーム』が昨年9月に首都圏の学生400人、社会人400人らを対象にインターネットで実施した。

学生の希望家賃は平均4万7000円と実際よりは1万円ほど低い。「1DK以上がいいわ」「駅から徒歩5分以内がいいな」。間取りや立地条件で望む声と家賃との折り合いが、永遠のテーマか。

## ■学業優先 生活質素

親元から離れて大学に通う自宅外学生の月額収入は、2011年実績で11万8900円。20年前の1991年では12万8390円と9490円の減少となった。年額にすると11万3880円ものマイナスだ。

全国大学生生活協同組合連合会が全国の学生約2万人を対象に行っている恒例の調査。20年間に減少したのは、仕送りが2万670円、アルバイト収入が5010円。逆に増えたのは奨学金の1万4850円だ。

同連合会の調査には学生の意識調査もあって、1980年代は「豊かな人間関係」に重点を置く学生が多かったが、90年代からは「勉学第一に」「何事もほどほどに」といった堅実な学生が増えだした。

## ■新成人の不安は「進路」

大学2年(!?)で迎える成人式。「交際相手がいる」のは26%。「交際相手がほしい」は64%。新成人の意識が結婚情報サービス『オーネット』の調査で明らかになった。

調査は昨年12月に独身の800人を対象に行われ、学生が全体の87%を占めた。

恋愛とは別の質問、現在不安に感じていることは?には「今後の進路」が56%と最多で、「今後の仕事や勉強」が44%で続いた。この先どうなるんだろうと考える悩む人が多いようだ。

「仕事だけの人生は嫌」と回答した人が半数を超え、「会社で出世したい」との熱望はリーマンショック前の2007年に比べ、13ポイント減の25%。「就職する会社は大きいほうがいい」と望む人は15%にとどまった。就職難に直面すると、多くを求めない若者像が浮かび上がってくる。

## ■新入社員の目標は

「定年まで、いまの会社で働きたい」という答えが34.3%で過去最高だったという。公益財団法人『日本生産性本部』などのアンケート調査で分かったもので、「厳しい就職環境のなか安定志向が強くなっているのでは」と同本部では見ている。

質問のなかには「デートの約束があったとき、残業を命じられたらどうしますか」というキツイ内容もある。「仕事します」との回答が85.6%で過去2番目に多かった。プライベートより仕事優先と考える傾向にあるようだ。

会社の選択基準では、「自分の能力、個性が生かせる」と答えた人が37%で最も多かった。ドルショックの1971年調査では1位の「会社の将来性」は3年連続10%以下だった。

調査は3~4月に同本部主催の研修に参加した新入社員を対象に行われ、2036人が回答した。

## ■東京は遅くに起きて遅くに寝る

日本人の睡眠時間を調べている総務省では、昨年9月発表の「平成23年社会生活基本調査」で、35年前に比べて25分ほど減っていることが分かった。夜間労働の増加や深夜営業の娯楽があふれるなど生活環境の変化が背景にあるとみられている。

都道府県別にみても、平日の睡眠時間が最も多いのは秋田県だった。7時間56分。2位は青森県と高知県で7時間54分。最下位は神奈川県で7時間18分だ。

起床時刻が最も遅いのは東京都で午前6時52分。東京都は就寝時刻も最も遅く午後11時41分。就寝時刻を青森県と比較すると東京都は1時間6分遅くに寝るといふ。

## ■体はどこから洗う

東京ガス都市生活研究科による「入浴に関する調査」。体を洗うのは湯につかった後か、つかる前か。この質問に首都圏はつかる前、関西圏はつかった後と答えた。2011年夏の調査で15~69歳の男女約2400人に聞いている。

東西の8割が「お風呂は好き」と答え、冬場に湯につかる回数は東西ともに週5回超。順番を聞いたところ、首都圏は「先に頭や体を洗う」が夏場43%、冬場33%。関西圏では「先に洗う」が夏場7%、冬場6%と少なく、「先に浴槽に入る」人が9割を超えた。

シャワー入浴や朝の入浴では、首都圏が多かった。